

泉佐野市教育支援センター

い
ず
み
さ
の
教
育



問合先
学校教育課

「さわやかルーム」「シャイン」

近年、全国的に不登校の児童生徒は増加傾向にあります。「不登校」とは「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しない、あるいはしたくてもできない状況にあることです。」

※「病気」「経済的理由」「新型コロナウイルスの感染回避」を除く（文部科学省より）

市では、学校に行きたいけれど行けない、行きづらい児童生徒に対して、家庭と学校の中間の居場所として教育支援センター「さわやかルーム（南部市民交流センター本館3階）」「シャイン（北部市民交流センター）青少年分館2階」を設置しています。

この教育支援センターでは、学習支援のみならず、様々な生活体験や人とのふれあいを通じて児童生徒の心のエネルギーを高めていく活動を行い、学校復帰や社会的自立に向けて支援しています。

2つの教育支援センターには、どちらもセンター長とスタッフ、カウンセラーを配置し、児童生徒と保護者の相談（いじめ、不登校、子育て、進路など）を受けています。また、メンタルフレンドと呼ばれる大学生を中心とするボランティアが、入室生に寄り添いながら相談相手になったり、学習面のサポートを行ったりしています。

さらに、市教育委員会では、毎月、不登校対策サポート委員会を開催し、各校の不登校担当者や家庭の教育機能総合支援指導員などが、取組の検討・検証を行ったり、よりきめ細やかな指導ができるよう専門的なスキルを身につける研修を行ったりしています。

今後、市では不登校を未然に防止するために、魅力ある学校づくりやより良い人間関係づくりを推進し、不登校の児童生徒に対しては、心の居場所づくり、学校復帰や社会的自立に向けて取り組んでいきます。

学校園紹介



ジャガイモ掘りと田植え
～第一小学校～

一小校区に住んでいる人の土地で、第一小学校と第三小学校の子どもがジャガイモ掘りと田植えをしました。5月26日に2年生、4年生とひまわり学級がジャガイモ掘りを、6月9日に5年生が田植えを体験しました。

ここ数年は、新型コロナウイルス感染症の影響で実施が難しかったのですが、感染状況が落ち着いていることや、土地を提供してくれている人の強い熱意のおかげで、両方とも実施することができました。



ジャガイモ掘りを体験した子どもは、掘ったジャガイモがいっぱい入った袋を、畑から学校まで引きずらないように、一生懸命運んでいました。



田植えを体験した子どもは、植え終わった水田を見て、「大変やったけど楽しかった。もう少し植えたい。」と言っていました。

子どもたちにとって貴重な体験になりました。

朝のあいさつ運動 ～委員会活動の充実～
～中央小学校～

中央小学校は児童会の代表委員が中心となって、すべての委員会の子どもたちが「あいさつ運動」に取り組んでいます。一学期と二学期の2回、時期をみながら行っていますが、委員会は全部で11ありますので、各委員会が3日担当すると1ヵ月以上続く長い取組になります。子どもたちは、登校してきた友だちに元気に声かけして、そんな姿を見ていると、朝から清々しい気持ちになります。



「あいさつ運動」は地域のみなさんにもご協力いただきながら行っていますが、火曜日には校門にも立っていただいています。子どもたちは「あいさつは、一日を元気に過ごすおまじない」といったスローガンを掲げて行っていた時もあり、自分たちで考えたスローガンは今も心に残っていると思います。



これからも、自分の気持ちを相手に伝える第一歩でもあるあいさつを大切にして、活動を続けたいと思います。